

大学番号：009

注3

[平成27年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

北海道医療大学 リハビリテーション科学部  
言語聴覚療法学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東日本学園  
平成27年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	経営企画部総務企画課
職名・氏名	カチョウ ミ ウラ セイ シ 課長 三 浦 清 志
電話番号	0133-22-2111
（夜間）	0133-23-1211
F A X	0133-23-1669
e-mail	soumu@hoku-iryo-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部  
(□□学部(平成◇◇年度より変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」  
※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## リハビリテーション科学部

	ページ
＜言語聴覚療法学科＞	
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	11
6. 留意事項等に対する履行状況等	18
7. その他全般的事項	19

## ＜添付資料＞

FD委員会規程

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 東日本学園

## (2) 大学名

北海道医療大学

## (3) 大学の位置

〒061-0293

北海道石狩郡当別町字金沢1757番地

- ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(トウゴウ シゲオキ) 東郷重興 (平成24年10月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ニイカワ ノリオ) 新川 詔夫 (平成22年4月)		
学部長	(イズミ タダフミ) 泉 唯史 (平成25年4月)		
学科長等	(キノシタ ケンジ) 木下 憲治 (平成27年4月)		

( ) 書きで記入してください。

(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)

平成27年度に報告する内容 → (27)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科 学士(言語聴覚療法学)	4年	60人	3年次 10人	260人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 提出年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	60人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	1.15倍	-倍	
志願者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	551 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
受験者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	542 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
合格者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	272 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
B 入学者数	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	69 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]			
入学定員超過率 B/A	-		-		-		1.15				

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( ) 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。  
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] - 69	[ - ] - 0	
2年次	/		[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	
3年次			/		[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -
4年次	/				[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -
計			[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) -	[ - ] ( - ) 69	[ - ] ( - ) -

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成24年度 入学者	人	0人	平成24年度	人	人		#DIV/0! %
			平成25年度	人	人		
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
平成25年度 入学者	人	0人	平成25年度	人	人		#DIV/0! %
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
平成26年度 入学者	人	0人	平成26年度	人	人		#DIV/0! %
			平成27年度	人	人		
平成27年度 入学者	69人	0人	平成27年度	0人	0人		0 %
合 計	69人	0人					0 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」のように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学  
 　　　　　　　・就職　　　・学生個人の心身に関する事情　　・家庭の事情　　・除籍　　・その他

## 2 授業科目の概要

<リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
全学教育科目	基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）	1前	1				1 3	0 2	0 1	2		兼 15 全学教育科目として科目内容 兼 12 の見直しにより担当変更(27)
	文章指導（日本語の表現）	1前	1				0 2	1 3	0 1	0 2		兼 12 全学教育科目として科目内容 兼 11 の見直しにより担当変更(27)
	人間と思想（心理学）	1後		2								兼 1
	人間と思想（死生学入門）	1前		2								兼 1
	人間と思想（哲学入門）	1前		2					1			
	人間と文化（文化人類学）	1前		2								兼 1
	人間と文化（環境の歴史）	2前		2								兼 1
	人間と文化（国際文化比較論）	2前		2								兼 3
	人間と社会（社会学入門）	1前		2								兼 1
	人間と社会（医療の経済学）	1後		2								兼 1
	人間と社会（医療の法学）	1後		2								兼 1
	人間と社会（国際社会福祉論）	3前		2								兼 3
	自然と科学（生命科学）	1前		2								兼 1
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA）	1前		1								兼 4 教育指導体制の充実を図るた 兼 3 め教員を追加（27）
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュB）	2前		1								兼 2
	英語Ⅱ（英語A）	1後		1					1			兼 1 教育指導体制の充実を図るた 兼 0 め教員を追加（27）
	英語Ⅱ（英語B）	2後		1					0 1			兼 1 担当教員の見直しにより担当 兼 0 解除（27）
	中国語（中国語）	1前		1								兼 1
	韓国語（韓国語）	1後		1								兼 1
	フランス語（フランス語）	2前		1								兼 1
	ドイツ語（ドイツ語）	2前		1								兼 1
	情報処理演習（情報処理演習）	1前		1						1		兼 1 教育指導体制の充実を図るた 兼 0 め教員を追加（27）
	統計学（基礎統計学）	1後		2						1		
	健康・運動科学演習（運動科学演習）	1通		2								兼 3
	自然科学入門（基礎数理）	未開講 1前		1								履修希望者がいないため未開 講（27） 兼 4 教育指導体制の充実を図るた め教員を追加（27）
	自然科学入門（物理学）	1後		2								兼 1
	自然科学入門（生物学）	1後		2								兼 1
	自然科学入門（化学）	1後		2								兼 1
	個体差健康科学（個体差健康科学・多職種連携入門）	1前		2			4	2				兼 26 教育指導体制の充実を図るた 兼 27 め教員を追加（27）
	地域連携（マイカル・カフェをつくるI）	2前		1								兼 7
	地域連携（地域包括ケア演習）	3前		1								兼 11
	医療倫理（医療倫理）	1後		2					1			兼 1
	多職種連携（多職種連携論）	3前		1					0 1			兼 19 教育指導体制の充実を図るた 兼 11 め教員を追加（27）
言語聴覚障害学概論	1後		2			1						
言語聴覚診断学総論	2前		1			1	2		2			
言語聴覚学総論Ⅰ	2前		1			1			5		兼 3	
言語聴覚学総論Ⅱ	3後		1			5	5	2	5			
言語聴覚学総論Ⅲ	4前		1			5	5	2	5			
言語聴覚学総論Ⅳ	4後		6			4	5	1	5		兼 5	
言語聴覚学総論Ⅴ	4後		2			5	5		5			
基礎人間科学	1前		4			2 1			1 0		教育指導体制の充実を図るた め教員を追加（27）	

専門教育科目	解剖生理学	1後	4			2 1							教育指導体制の充実を図るため教員を追加(27)
	音声言語聴覚医学	1後	3			2							
	医学総論	2前	1.5			4							
	公衆衛生学	2前		2								兼 1	
	遺伝学	2後		1.5		1							
	病理学	2前	1									兼 1	
	内科学	2前	2									兼 5	
	小児科学	2前	2									兼 1	
	耳鼻咽喉科学	2後	2			1							
	形成外科学	2前	1									兼 5	
	精神医学	2後	1			1							
	神経学	2後	1.5			1							
	リハビリテーション医学	2後	1.5			1			4			兼 3 兼 4	効果的配置を考慮し変更(27)
	歯科学総論	2後	1			1						兼 1	
専門教育科目	口腔外科学	2後	1									兼 1	
	音声学	1前	2			1		1					
	言語学	1後	2.5			1							
	音響学	2前	4			1							
	言語発達学	2前	1			1		1				兼 1	
	日本語学	2前		2		1							
	神経言語学	2後		2		1	1						
	認知心理学	1前	1.5			1							
	学習心理学	1後	1.5									兼 1	
	発達心理学	1後	1.5									兼 1	
	生理心理学	2前		1.5								兼 1	
	臨床心理学	2前	1.5									兼 1	
	心理測定法	2前	1.5					1					
	リハビリテーション概論	1前	2			1						兼 5 兼 4	教育指導体制の充実を図るため教員を追加(27)
	関係法規	2前	1.5			1							
	社会保障制度論	3前	1									兼 1	
	社会福祉援助技術論	3前		1								兼 1	
	失語症学Ⅰ	2前	1			1	1						
	失語症学Ⅱ	2後	1.5			1						兼 1	
	高次脳機能障害学	3前	1.5			1	1						
	言語発達障害学	2後	2				1		1				
	言語発達障害学特論	3前	2				2		1				
	成人発声発語障害学	3前	4			2			1				
	小児発声発語障害学	3前	2.5			1							
	摂食嚥下障害学	3前	2			2			1				
	成人聴覚障害学	2後	2			1	1		1				
	小児聴覚障害学	3前	2			1	1		1				
	失語症学演習Ⅰ	3前	1			1			1				
	失語症学演習Ⅱ	3後	1				1		1				
	高次脳機能障害学演習	3後	1			1	1		1				
	言語発達障害学演習	3後	2				1		1				
	成人発声発語障害学演習	3後	2			1			2				
	小児発声発語障害学演習	3後	1			1			1				
	摂食嚥下障害学演習	3前	1						2				
	聴覚障害学演習	3通	3				1		1				
	基礎実習	3後	2			5	2		5 4	0 1			助手から助教に昇格(27)
	総合実習	4前	10			5	5	2	5 4	0 1			助手から助教に昇格(27)
	英語論文講読・研究法	3後		1.5			3						
	言語聴覚ゼミナールⅠ	3後	1			5	5	1	5				
	言語聴覚ゼミナールⅡ	4通		1		5	5	1	5				
	卒業研究	4通		1		5	5	1	5				



- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
64	32	0	96	64	32	0	96	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{\phantom{0.00}}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体  共用：歯学部附属歯科 衛生士専門学校収容定 員150名 面積基準なし					
	校舎敷地	64,222.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	65,872.53㎡						
	運動場用地	27,800.00㎡	0㎡	0㎡	27,800.00㎡						
	小 計	92,022.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	93,672.53㎡						
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡						
	合 計	149,338.27㎡	1,650.00㎡	0㎡	150,988.27㎡						
(2) 校 舎	専 用	72,110.27㎡	0㎡	0㎡	72,110.27㎡	大学全体					
		72,110.27㎡	( 0㎡)	( 0㎡)	72,110.27㎡						
(3) 教 室 等	講 義 室	48室	演 習 室	51室	実験実習室	51室	情報処理学習施設	2室	語学学習施設	2室	大学全体
					(補助職員 人)		(補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			大学全体				
	リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科			13 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	機械・器具数の増加及び 標本数の廃業による減少 (27)  図書は電子ブックを含 む。学術雑誌は電子ジャー ナルを積極的に導入。図書等 の数は学部単位での特定 不能なため、大学全体の 数(26) 図書、視聴覚資料、学術 雑誌は実績に基づく変更 (27)			
	リハビリテー ション科学部 言語聴覚療法学 科	355,174 [186,160] (357,846 [194,956]) <del>(348,898 [185,948])</del>	2,638 [1,217] (2,423 [1,204]) <del>(2,627 [1,209])</del>	9,065 [7,389] (7,673 [6,034]) <del>(8,749 [7,169])</del>	6,669 (6,731) <del>(6,565)</del>	74,107 <del>76,859</del> (74,107) <del>(71,179)</del>	2,165 <del>2,485</del> (2,165) <del>(2,380)</del>				
	計	355,174 [186,160] (357,846 [194,956]) <del>(348,898 [185,948])</del>	2,638 [1,217] (2,423 [1,204]) <del>(2,627 [1,209])</del>	9,065 [7,389] (7,673 [6,034]) <del>(8,749 [7,169])</del>	6,669 (6,731) <del>(6,565)</del>	74,107 <del>76,859</del> (74,107) <del>(71,179)</del>	2,165 <del>2,485</del> (2,165) <del>(2,380)</del>				
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体					
	4,866.96 ㎡	461 445一席		275,000 冊			閲覧席を増設したため(27)				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体					
	1,746.49㎡	屋外野球場・サッカー/ラグビー場・テニスコート(27,800㎡) フィットネスセンター(411㎡)									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費、図書購入 費、設備購入費につい ては、学部単位での特 定不能なため大学全体 の数。 図書費には電子ジャー ナル・データベースの整備費 (運費用含む)を含 む。		
		教員1人当り研究費等	418千円	418千円	図書購入費	88,107千円	88,000千円	88,000千円			
	共同研究費等	23,000千円	23,000千円	設備購入費	568,820千円	455,662千円	455,662千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,375千円	1,375千円	1,375千円	1,375千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、雑収入等									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	北海道医療大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍			
薬学部 薬学科	6	160	3年次 10	980	学士 (薬学)	1.15	平成18年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
歯学部 歯学科	6	80	—	520	学士 (歯学)	0.66	昭和53年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
看護福祉学部 看護学科	4	100	3年次 9	418	学士 (看護学)	1.11	平成5年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
臨床福祉学科	4	80	3年次 9	338	学士 (臨床福祉学)	1.00	平成14年度		
心理科学部 臨床心理学科	4	75	3年次 2	304	学士 (臨床心理学)	0.99	平成14年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
言語聴覚法学科	4	—	—	—	学士 (言語聴覚療法)	—	平成14年度		平成27年度より学生募集停止
リハビリテーション科学部 理学療法学科	4	80	2年次 5	250	学士 (理学療法)	1.12	平成25年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1758番地	
作業療法学科	4	40	2年次 5	130	学士 (作業療法)	1.13	平成25年度		
言語聴覚療法学科	4	60	—	60	学士 (言語聴覚療法)	1.15	平成27年度		
薬学研究科 生命薬科学専攻修士課程	2	3	—	6	修士 (生命薬科学)	0.00	平成22年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	3年課程平成24年度より学生募集停止
薬学専攻博士後期課程(3年)	3	—	—	—	博士 (薬学)	—	昭和57年度		
薬学専攻博士課程(4年)	4	3	—	12	博士 (薬学)	1.08	平成24年度		
歯学研究科 歯学専攻博士課程	4	18	—	72	博士 (歯学)	0.50	昭和63年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
看護福祉学研究科 看護学専攻修士課程	2	15	—	30	修士 (看護学)	1.10	平成9年度		
看護学専攻博士課程	3	2	—	6	博士 (看護学)	1.66	平成11年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
臨床福祉学専攻修士課程	2	5	—	10	修士 (臨床福祉学)	0.90	平成16年度		
臨床福祉学専攻博士課程	3	2	—	6	博士 (臨床福祉学)	0.16	平成16年度		
心理科学研究科 臨床心理学専攻修士課程	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	1.00	平成16年度		
臨床心理学専攻博士課程	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.83	平成16年度	北海道札幌市北区あいの 里2条5丁目	
言語聴覚学専攻修士課程	2	5	—	10	修士 (言語聴覚学)	0.10	平成18年度		
言語聴覚学専攻博士課程	3	2	—	6	博士 (言語聴覚学)	0.00	平成18年度		
リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻修士課程	2	5	—	10	修士 (リハビリテーション科学)	1.00	平成25年度	北海道石狩郡当別町字 金沢1757番地	
リハビリテーション科学専攻博士課程	3	2	—	2	博士 (リハビリテーション科学)	1.00	平成27年度		

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)。

大学院(専攻)及び短期大学(学科)(A C対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。

※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。

・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。

・A C対象学部等についても必ず記入してください。

・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。

・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科>

(1) 担当教員表

専任・兼担・兼任の別	設置時の計画				変更状況				備考	
	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専	教授	木下 憲治 (58)	平成27年4月	基礎バイタル (コミュニケーション実践論) 個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 医学総論 歯科学総論 摂食嚥下障害学 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	教授	木下 憲治 (58)	平成27年4月	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 医学総論 歯科学総論 摂食嚥下障害学 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究 基礎人間科学 解剖生理学	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	教授	亀井 尚 (63)	平成27年4月	基礎バイタル (コミュニケーション実践論) 個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚障害学概論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 神経言語学 関係法理 失語症Ⅱ 失語症学演習Ⅰ 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	教授	亀井 尚 (63)	平成27年4月	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚障害学概論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 神経言語学 関係法理 失語症Ⅱ 失語症学演習Ⅰ 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	教授	今井 智子 (61)	平成27年4月	基礎バイタル (コミュニケーション実践論) 個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅰ 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 医学総論 成人失声発語障害学 小児失声発語障害学 成人失声発語障害学演習 小児失声発語障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	教授	今井 智子 (61)	平成27年4月	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅰ 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 医学総論 成人失声発語障害学 小児失声発語障害学 成人失声発語障害学演習 小児失声発語障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	教授	西澤 典子 (59)	平成27年4月	文章指導 (日本語の表現) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 音声言語聴覚医学 医学総論 耳鼻咽喉科学 成人失声発語障害学 摂食嚥下障害学 成人聴覚障害学 小児聴覚障害学 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	教授	西澤 典子 (59)	平成27年4月	言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 音声言語聴覚医学 医学総論 耳鼻咽喉科学 成人失声発語障害学 摂食嚥下障害学 成人聴覚障害学 小児聴覚障害学 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	教授	中川 賀嗣 (53)	平成27年4月	文章指導 (日本語の表現) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 音声言語聴覚医学 医学総論 精神医学 神経学 リハビリテーション医学 失語症Ⅰ 失語症学 高次脳機能障害学 高次脳機能障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	教授	中川 賀嗣 (53)	平成27年4月	言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 音声言語聴覚医学 医学総論 精神医学 神経学 リハビリテーション医学 失語症Ⅰ 失語症学 高次脳機能障害学 高次脳機能障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	教授	太田 亨 (51)	平成27年4月	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 遺伝学						
専	教授	下村 敦司 (47)	平成27年4月	基礎人間科学 解剖生理学	専	教授	下村 敦司 (47)	平成27年4月	基礎人間科学 解剖生理学 基礎バイタル (コミュニケーション実践論)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)

専	准教授	福田 真二 ( 51 )	平成27年 4月	文章指導 (日本語の表現) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 言語学 言語発達学 日本語学 神経言語学 言語発達障害学特論 総合実習 英語論文講読・研究法 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	准教授	福田 真二 ( 51 )	平成27年 4月	言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 言語学 言語発達学 日本語学 神経言語学 言語発達障害学特論 総合実習 英語論文講読・研究法 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	准教授	榊原 健一 ( 47 )	平成27年 4月	基礎セミナー (21:21-21:30)実践論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 音声学 音響学 総合実習 英語論文講読・研究法 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	准教授	榊原 健一 ( 47 )	平成27年 4月	言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 音声学 音響学 総合実習 英語論文講読・研究法 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究 文章指導 (日本語の表現)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	准教授	玉重 詠子 ( 56 )	平成27年 4月	基礎セミナー (21:21-21:30)実践論 個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 成人聴覚障害学 小児聴覚障害学 聴覚障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	准教授	玉重 詠子 ( 56 )	平成27年 4月	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 成人聴覚障害学 小児聴覚障害学 聴覚障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	准教授	田村 至 ( 54 )	平成27年 4月	文章指導 (日本語の表現) 個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ リハビリテーション概論 失語症Ⅰ 高次脳機能障害学 失語症学演習Ⅱ 高次脳機能障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	准教授	田村 至 ( 54 )	平成27年 4月	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門) 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ リハビリテーション概論 失語症Ⅰ 高次脳機能障害学 失語症学演習Ⅱ 高次脳機能障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	准教授	橋本 竜作 ( 38 )	平成27年 4月	文章指導 (日本語の表現) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 認知心理学 言語発達障害学 言語発達障害学特論 言語発達障害学演習 総合実習 英語論文講読・研究法 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	准教授	橋本 竜作 ( 38 )	平成27年 4月	言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 言語聴覚学総論Ⅴ 認知心理学 言語発達障害学 言語発達障害学特論 言語発達障害学演習 総合実習 英語論文講読・研究法 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	講師	畠山 彰文 ( 44 )	平成27年 4月	基礎セミナー (21:21-21:30)実践論 情報処理演習 (情報処理演習) 統計学 (基礎統計学) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 心理測定法 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	専	講師	畠山 彰文 ( 44 )	平成27年 4月	情報処理演習 (情報処理演習) 統計学 (基礎統計学) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 言語聴覚学総論Ⅳ 心理測定法 総合実習 言語聴覚ゼミナールⅠ 言語聴覚ゼミナールⅡ 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	講師	白鳥 亜矢子 ( 34 )	平成27年 4月	英語Ⅱ (英語A) 英語Ⅱ (英語B)	専	講師	白鳥 亜矢子 ( 34 )	平成27年 4月	英語Ⅱ (英語A)	担当教員の見直しにより担当解除 (27)
専	講師	森元 良太 ( 39 )	平成27年 4月	文章指導 (日本語の表現) 人間と思想 (哲学入門) 医療倫理 (医療倫理) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 総合実習	専	講師	森元 良太 ( 39 )	平成27年 4月	人間と思想 (哲学入門) 医療倫理 (医療倫理) 言語聴覚学総論Ⅱ 言語聴覚学総論Ⅲ 総合実習	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)

専	助教	柳田 早織 ( 30 )	平成27年 4 月	文章指導 (日本語の表現) 言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 音声学 言語発達学 成人発声発語障害学演習 小児発声発語障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	専	助教	柳田 早織 ( 30 )	平成27年 4 月	言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 音声学 言語発達学 成人発声発語障害学演習 小児発声発語障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	助教	小林 健史 ( 43 )	平成27年 4 月	基礎びびり (21:21:21)実践論 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 言語発達障害学 言語発達障害学特論 言語発達障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	専	助教	小林 健史 ( 43 )	平成27年 4 月	言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 言語発達障害学 言語発達障害学特論 言語発達障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	助教	前田 秀彦 ( 44 )	平成27年 4 月	文章指導 (日本語の表現) 言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 成人聴覚障害学 小児聴覚障害学 聴覚障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	専	助教	前田 秀彦 ( 44 )	平成27年 4 月	言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 成人聴覚障害学 小児聴覚障害学 聴覚障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究 基礎びびり (21:21:21)実践論 基礎人間科学	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27) 教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加 (27)
専	助教	飯泉 智子 ( 42 )	平成27年 4 月	基礎びびり (21:21:21)実践論 言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 成人発声発語障害学 摂食嚥下障害学 成人発声発語障害学演習 摂食嚥下障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	専	助教	飯泉 智子 ( 42 )	平成27年 4 月	言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V リハビリテーション医学 成人発声発語障害学 摂食嚥下障害学 成人発声発語障害学演習 摂食嚥下障害学演習 基礎実習 総合実習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当解除 (27)
専	助教	黒崎 芳子 ( 43 )	平成27年 4 月	言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V 失語症学演習 I 失語症学演習 II 高次脳機能障害学演習 摂食嚥下障害学演習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究	専	助教	黒崎 芳子 ( 43 )	平成27年 4 月	言語聴覚学総論 I 言語聴覚学総論 II 言語聴覚学総論 III 言語聴覚学総論 IV 言語聴覚学総論 V 失語症学演習 I 失語症学演習 II 高次脳機能障害学演習 摂食嚥下障害学演習 言語聴覚ゼミナール I 言語聴覚ゼミナール II 卒業研究 基礎びびり (21:21:21)実践論	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加 (27)
					専	助教	葛西 聡子 ( 42 )	平成27年 4 月	基礎実習 総合実習	平成27年 4 月 期手から助教へ昇格 (27)

兼任	教授	泉 唯史 (59)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 多職種連携(多職種連携) リハビリテーション概論						
兼任	教授	国永 史朗 (64)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 自然と科学(生命科学) 自然科学入門(生物学) 地域連携(対外連携をつくるI) 地域連携(地域包括ケア演習)						
兼任	教授	鎌田 樹寛 (55)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 地域連携(地域包括ケア演習) リハビリテーション概論						
兼任	教授	山口 明彦 (52)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 健康・運動科学演習(運動科学演習) 多職種連携(多職種連携)						
兼任	教授	鈴木 英樹 (48)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 地域連携(地域包括ケア演習)	兼任	教授	鈴木 英樹 (48)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 地域連携(地域包括ケア演習)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	高橋 尚明 (45)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 地域連携(地域包括ケア演習)						
兼任	教授	武田 涼子 (43)	平成27年4月	基礎ゼミナール(21世紀型人材論) 多職種連携(多職種連携)						
兼任	教授	吉田 晋 (48)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携) リハビリテーション概論						
兼任	教授	小島 悟 (45)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 地域連携(地域包括ケア演習)						
兼任	教授	堀本 佳音 (40)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 地域連携(地域包括ケア演習)						
兼任	教授	本家 寿洋 (47)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携) 言語聴覚学総論I						
兼任	教授	上野 武治 (71)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携)	兼任	教授	上野 武治 (71)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携) リハビリテーション概論	教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
兼任	教授	花濤 馨也 (48)	平成27年4月	人間と文化(文化人類学) 人間と文化(国際文化比較論) 人間と社会(国際社会福祉論) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)						
兼任	教授	半田 祐二郎 (62)	平成27年4月	人間と文化(国際文化比較論) 人間と社会(国際社会福祉論) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	講師	後藤 道 (66)	平成27年4月	人間と文化(国際文化比較論)	平成27年3月半田祐二郎教授退職のため平成27年度より担当者を減らす(27)
							後任未定			平成27年3月半田祐二郎教授退職のため担当者を調査中(27)
兼任	教授	Howard Neal Tarnoff (62)	平成27年4月	人間と文化(国際文化比較論) 英語I(4-36-4/27)リッスA)						
兼任	教授	森田 勲 (60)	平成27年4月	健康・運動科学演習(運動科学演習)						
兼任	教授	橋本 昇 (65)	平成27年4月	自然科学入門(物理学)	兼任	准教授	長谷川 敦司 (51)	平成27年4月	自然科学入門(物理学)	平成27年3月橋本昇教授退職のため平成27年度より担当者を減らす(27)
兼任	教授	黒澤 隆夫 (64)	平成27年4月	自然科学入門(化学)	兼任	講師	鈴木 晋一 (44)	平成27年4月	自然科学入門(化学)	担当教員の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	唯野 貴司 (64)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	教授	唯野 貴司 (64)	平成27年4月		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	遠藤 泰 (56)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)						
兼任	教授	齊藤 正人 (48)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)						
兼任	教授	中山 英二 (56)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	教授	中山 英二 (56)	平成27年4月		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	越野 寿 (54)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)						
兼任	教授	志水 幸 (51)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 社会保険制度論	兼任	教授	志水 幸 (51)	平成27年4月	社会保険制度論	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	小林 正伸 (62)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 内科学	兼任	教授	小林 正伸 (62)	平成27年4月	内科学	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	堀内 ゆかり (51)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	教授	堀内 ゆかり (51)	平成27年4月		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	坂野 雄二 (64)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	教授	坂野 雄二 (64)	平成27年4月		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	富家 直明 (46)	平成28年4月	言語聴覚学総論IV 臨床心理学						
兼任	教授	志渡 晃一 (61)	平成28年4月	公衆衛生学						
兼任	教授	辻 昌宏 (63)	平成28年4月	内科学						
兼任	教授	伊藤 昭英 (55)	平成28年4月	内科学			後任未定			平成27年3月伊藤昭英教授退職のため担当者を調査中(27)
兼任	教授	中野 倫仁 (58)	平成28年4月	内科学	兼任	教授	中野 倫仁 (57) ( <del>58</del> )	平成27年4月 平成28年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
兼任	教授	川上 智史 (58)	平成28年4月	歯科学総論						
兼任	教授	永易 裕樹 (50)	平成28年4月	口腔外科学						
兼任	教授	大友 芳恵 (57)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	教授	大友 芳恵 (57)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 多職種連携(多職種連携)	教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
					兼任	教授	塚越 博史 (62)	平成27年4月	英語II(英語A)	教育指導体制の充実を図るため担当者を追加(27)
					兼任	教授	和田 啓爾 (62)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
					兼任	教授	斎藤 隆史 (50)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
					兼任	教授	平 典子 (62)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
					兼任	教授	高橋 憲男 (68)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
					兼任	教授	大原 裕介 (35)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を減らす(27)
					兼任	教授	三国 久美 (54)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携)	教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)



兼任	准教授	浅野 雅子 (40)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携) リハビリテーション医学							
兼任	准教授	薄井 明 (56)	平成27年4月	人間と社会(社会学入門)							
兼任	准教授	柳田 寛 (65)	平成28年4月	フランス語(フランス語)	兼任	講師	柳田 寛 (64)	平成28年4月	フランス語(フランス語)		平成27年3月 柳田 寛准教授退職のため平成28年度より兼任講師として担当(27)
兼任	准教授	石田 朗 (50)	平成27年4月	自然科学入門(基礎数理解)	兼任	教授	二瓶 裕之 (50)	平成27年4月	自然科学入門(基礎数理解)		平成27年3月 石田 朗准教授退職のため平成27年度より担当者の変更(27) 教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
兼任	准教授	千葉 薫 (61)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)			後任未定		個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)		平成27年3月 千葉 薫准教授退職のため担当者を 調整中(27)
兼任	准教授	竹生 礼子 (55)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)							
兼任	准教授	長谷川 聡	平成28年4月	地域連携(『F・H・Mをつくる1』)							
兼任	准教授	漆原 宏次 (43)	平成27年4月	言語聴覚学総論IV 学習心理学							
兼任	准教授	柴田 達郎 (60)	平成28年4月	言語聴覚学総論IV 小児科学							
兼任	准教授	森谷 満 (53)	平成28年4月	内科学	兼任	教授	森谷 満 (52)	平成28年4月	内科学		平成27年4月 昇格(27)
兼任	准教授	浜上 尚也 (51)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)							
兼任	准教授	荒川 俊哉 (52)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)							
					兼任	准教授	鈴木 由美 (53)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携) 基礎ドットドット(コミュニケーション実践論)		教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27) 全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
					兼任	准教授	近藤 里美 (53)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
					兼任	准教授	森 伸幸 (52)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
					兼任	准教授	阿部 博史 (41)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
					兼任	准教授	巻 康弘 (48)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携)		教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
兼任	講師	千葉 芳広 (47)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 人間と文化(環境の歴史) 人間と社会(国際社会福祉論) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 地域連携(『F・H・Mをつくる1』)	兼任	講師	千葉 芳広 (47)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 人間と文化(環境の歴史) 人間と社会(国際社会福祉論) 地域連携(『F・H・Mをつくる1』)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
兼任	講師	木村 恵 (41)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 地域連携(地域包括ケア演習) リハビリテーション医学							
兼任	講師	朝日 まどか (39)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 地域連携(地域包括ケア演習) 言語聴覚学総論I							
兼任	講師	澤田 篤史 (35)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 多職種連携(多職種連携)							
兼任	講師	澤村 大輔 (35)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 地域連携(地域包括ケア演習)							
兼任	講師	長谷川 純子 (34)	平成27年4月	基礎ドットドット(コミュニケーション実践論) 地域連携(地域包括ケア演習)							
兼任	講師	宮崎 充功 (36)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携)	兼任	准教授	宮崎 充功 (36)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携)		平成27年4月 昇格(27)
兼任	講師	浅野 葉子 (42)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) 多職種連携(多職種連携) 言語聴覚学総論I							
兼任	講師	磯部 太一 (35)	平成27年4月	人間と思想(死生学入門) 医療倫理(医療倫理)							
兼任	講師	櫻井 潤 (37)	平成27年4月	人間と社会(医療の経済学)							
兼任	講師	姫嶋 瑞穂 (38)	平成27年4月	人間と社会(医療の法)							
兼任	講師	櫻田 涉 (48)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)							
兼任	講師	吉田 栄一 (56)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	講師	吉田 栄一 (56)	平成27年4月			全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
兼任	講師	中山 章 (47)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)	兼任	講師	中山 章 (47)	平成27年4月			全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
兼任	講師	豊下 祥史 (41)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)							
兼任	講師	佐々木 祐二 (44)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) リハビリテーション概論	兼任	講師	佐々木 祐二 (44)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門) リハビリテーション概論 基礎ドットドット(コミュニケーション実践論)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
兼任	講師	宮崎 友香 (42)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)							
兼任	講師	百々 尚美 (46)	平成28年4月	地域連携(『F・H・Mをつくる1』) 生心理学							
兼任	講師	堀内 正隆 (49)	平成28年4月	地域連携(『F・H・Mをつくる1』)							
兼任	講師	今井 常晶 (53)	平成27年4月	発達心理学							
兼任	講師	松岡 慈史 (35)	平成27年4月	人間と思想(心理学)							
兼任	講師	金澤 潤一郎 (40)	平成28年4月	地域連携(『F・H・Mをつくる1』)							
					兼任	講師	長谷 佳子 (49)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携)		教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
					兼任	講師	加藤 依子 (39)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携)		教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
					兼任	講師	川添 恵理子 (52)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携)		教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)
兼任	助教	大塚 裕之 (31)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 地域連携(地域包括ケア演習)							
兼任	助教	児玉 壮志 (33)	平成27年4月	文章指導(日本語の表現) 多職種連携(多職種連携) リハビリテーション概論							
兼任	助教	井上 恒志郎 (29)	平成27年4月	健康・運動科学演習(運動科学演習)	兼任	助教	井上 恒志郎 (29)	平成27年4月	健康・運動科学演習(運動科学演習)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
兼任	助教	建部 二三 (36)	平成28年4月	地域連携(『F・H・Mをつくる1』)							
					兼任	助教	佐々木みづほ (32)	平成27年4月	個体差健康科学(個体差健康科学・多職種連携入門)		全学教育科目として科目内容の見直しにより担当者を追加(27)
					兼任	助教	近藤 尚也 (31)	平成27年4月	多職種連携(多職種連携)		教育指導体制の充実を図るため、担当者を追加(27)

兼任	講師	Adrian Travis Cain (38)	平成27年4月	英語Ⅰ (オーストラリアA) 英語Ⅰ (オーストラリアB)								
兼任	講師	Shaun Russell Hoggard (40)	平成27年4月	英語Ⅰ (オーストラリアA) 英語Ⅰ (オーストラリアB)								
					兼任	講師	Glenn Santos (44)	平成27年4月	英語Ⅰ (オーストラリアA)			平成27年4月 教育指導体制の充実を図るため、担 当者を追加 (27)
					兼任	講師	渡辺 まどか (51)	平成27年4月	英語Ⅱ (英語B)			白鳥蓮矢子専任講師の担当解除によ り担当者の変更 (27)
兼任	講師	呉 秀娟 (35)	平成27年4月	中国語 (中国語)								
兼任	講師	中 相勲 (45)	平成28年4月	韓国語 (韓国語)								
兼任	講師	阿部 和夫 (48)	平成28年4月	ドイツ語 (ドイツ語)								
					兼任	講師	橋本 昇 (66)	平成27年4月	自然科学入門 (基礎数理)			平成27年4月 教育指導体制の充実を図るため、担 当者を追加 (27)
兼任	講師	小山 明彦 (49)	平成28年4月	言語聴覚学総論Ⅳ 形成外科学								
兼任	講師	山路 めぐみ (69)	平成28年4月	言語聴覚学総論Ⅳ 言語発達学								
兼任	講師	細川 真澄男 (77)	平成28年4月	病理学								
兼任	講師	村尾 尚規 (43)	平成28年4月	形成外科学								
兼任	講師	古川 洋志 (49)	平成28年4月	形成外科学								
兼任	講師	舟山 恵美 (52)	平成28年4月	形成外科学								
兼任	講師	林 利彦 (51)	平成28年4月	形成外科学								
兼任	講師	森 祥子 (41)	平成29年4月	社会福祉援助技術論								
兼任	講師	大槻 美佳 (53)	平成28年4月	失語症Ⅱ								

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。  
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。  
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。  
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の**就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成27年5月1日現在の満年齢**を記入してください。  
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
7	5	3	5	20	7	5	3	6	21	65	0	—	—
(7)	(5)	(3)	(5)	(20)	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 1 ]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)  
 ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)。および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「—」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1			該当なし
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。  
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (27年 4月)	該当なし	留意事項		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

<リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
特になし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

\*FD委員会【全学組織：FD委員会規程（別添）】

\*リハビリテーション科学部FD委員会【学部内組織】

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

\*FD委員会：10回開催（平成26年度実績）

\*リハビリテーション科学部FD委員会：13回（平成26年度実績／研究科FD委員会合同開催）

##### c 委員会の審議事項等

\*FD委員会：①年間事業計画 ②FD研修（基本編）実施要領 ③FD研修（テーマ編）実施要領  
 ④授業アンケート実施要領 ⑤授業公開実施要領 他

\*リハビリテーション科学部FD委員会：①年間事業計画 ②FD研修セミナー開催要領 他

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

\*FD委員会関係：FD研修（基本編）、FD研修（テーマ編）、授業アンケート、授業公開

\*リハビリテーション科学部FD委員会：FD研修

##### b 実施方法

\*FD委員会関係：

・FD研修（基本編）：講義およびワークショップ【年1回・4月（1日）】

・FD研修（テーマ編）：講義およびワークショップ【年1回・8月（1日）】

・授業評価アンケート：各科目最終授業時間・OCR用紙・設問20問・5段階評価【年2回・前後期末】

・授業公開：全学部全教員対象【通年・随時】

\*リハビリテーション科学部FD委員会：FD研修セミナー【全3回】

##### c 開催状況（教員の参加状況含む）

\*FD委員会関係：

・FD研修（基本編）：平成26年4月5日（土） 10:00～17:00 【参加教員38名】

・FD研修（テーマ編）：平成26年8月8日（金）9:30～17:00 【参加教員：44名】

・FD講演会：平成26年9月30日（火）17:15～18:30 【参加教員：127名参加/参加学生：4名】

平成27年1月16日（金）16:30～18:00 【参加教員：94名参加】

・学長講話：平成26年10月28日（水）17:30～18:30 【参加教員：202名参加】

\*リハビリテーション科学部FD委員会：

・第1回FDセミナー：平成26年8月5日（月）16:00～17:30 【参加教員22名】

・第2回FDセミナー：平成26年10月2日（木）17:00～18:30 【参加教員18名/参加学生1名】

・第3回FDセミナー：平成26年12月11日（木）17:00～19:00 【参加教員15名】

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

全学においてFD研修（基本編、テーマ編）、FD講演会を開催した。それぞれ参加教員より、学部教員に内容等が報告され、各教員の授業運営や学生支援についての配慮に努めている。  
リハビリテーション科学部／研究科では、研究会参加報告会と実践者による講演形式のセミナーを実施した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・授業評価アンケート：実施有 ・実施時期：年2回・前後期末（各授業科目最終講義時）

b 教員や学生への公開状況，方法等

・授業評価アンケートの集計・解析結果について教員に配布しており、併せて結果についてHPに掲載し学生・教職員が閲覧することが出来るようにしている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

包括的なリハビリテーション医学を理解し、その中でコミュニケーション障害における多職種連携を担える人材を育成する。この目的をより明確にし、かつ確実に実現させるために、本学科をリハビリテーション科学部に設置する。この目的に基づき編成された授業科目については、すべて計画通り開講しており、また、これらの趣旨・目的は、引き続き広報誌やホームページのほかオープンキャンパス等でも広く周知を行っている。

平成27年度入学生については、入学倍率が2.0倍となり、ほぼ円滑に学生確保を行うことが出来た。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成27年8月末日 公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、学内教職員及び関係大学、団体等に配布。

③ 認証評価を受ける計画

・平成22年度に評価機関（大学基準協会）の評価（第3回）を受審し、平成23年3月「大学基準に適合」しているとの認定を受けた。  
・平成29年度に第4回目の評価機関（大学基準協会）の申請を予定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (  有 ) ・ (  無 )

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (      年      月      日      )